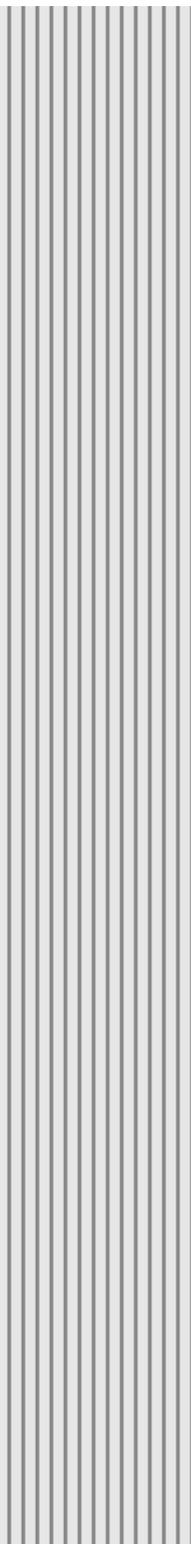


第2章

事業の実施



1 内閣総理大臣メッセージ

「世界青年の船」事業（ハイブリッド）に参加する各国の皆さん、日本の総理大臣の岸田文雄です。御来日を心から歓迎申し上げます。

この「世界青年の船」事業は、次世代のグローバル・リーダーを育成することを目的に実施しており、これまで、世界で活躍する多くの青年の皆さんを輩出してきました。

この事業を通じて出会った仲間たちと共に過ごす時間や培われた絆、文化や価値観の違いを乗り越える。こうしたことを通じて、議論を一つにまとめた経験は、皆さんが、将来、リーダーとしてそれぞれの国や地域において活躍する場面においても、かけがえのない財産になると思います。

明日からは、8つのグループに分かれて地方を訪問されると聞いています。それぞれの地域には、独自の文化、

また美しい風景もあります。ぜひ、皆さんの視点で、様々な日本を、見聞きし、感じていただきたいと思っています。

明日の日本と世界のかじ取りを担う皆さんが、この事業への参加をきっかけに、それぞれの国と国との架け橋として、大いに活躍されますことを期待して、私の御挨拶とさせていただきます。

皆さんが、素晴らしい思い出を残されますことを、心から祈念しています。今日はお越しいただきましてありがとうございました。

令和5年2月14日

表敬訪問

内閣総理大臣官邸にて

2 コース・ディスカッション(CD)

コース・ディスカッション(CD)とは、多国籍から成るPYが、希望に基づいたコースに分かれ、ファシリテーターの指導の下に行われるディスカッション・プログラムである。PYは、SDGs(Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)を共通テーマとした、8つのそれぞれ違ったアカデミックなテーマに取り組んだ。それぞれのコースは15~18名のPYで構成される。PYは、CDを通してそれぞれのテーマの実情について理解を深め、課題解決の糸口を探る。また、PYが率直かつ活発な意見交換を通じ、相互理解の促進、文化の異なる集団の中でのコミュニケーション能力を身に付けることも目的とする。

主な流れは、以下の通り。

- (1) 11月26日(土)~12月11日(日)の週末:オンライン交流
 - ・ CD 1時間45分×3コマ(参加国は、時差により2つに分かれる。)
- (2) 2月8~14日:中央プログラム①
 - ・ CD 2時間×4コマ
 - ・ 課題別視察①(日本の文化及び社会について自ら体験し理解を深める。JPYが企画した。)

- ・ 課題別視察②(テーマに沿った関連施設への訪問を通し、日本の事例を学び、テーマに対する知見を深める。)
 - ・ 事後活動セッション(全体会) 2時間(PYが事業終了後に社会活動を行う際に必要な、具体的な知識やスキルを学ぶことを目的とし、企画・実践に向けての取り組み方をファシリテーターから学ぶセッション)
- (3) 2月15~18日:地方プログラム
 - ・ 全国8州市のうち、コースごとに1か所を訪問し、ディスカッション・テーマに沿った関連施設の見学や交流を通じて見識を深め、ディスカッションの深化に繋げる。
 - (4) 2月19~20日:中央プログラム②
 - ・ CD(まとめ、サマリー・フォーラム準備、レポート作成、自己評価)
 - ・ サマリー・フォーラム(全体会)

コース・ディスカッション・レポートは、第3章を参照。

3 オンライン交流及び仮想空間における交流

オンライン交流の日程を含令和4年11月19日～12月28日に仮想空間を開設した。同空間では自発的なアイデアにより、PYが主体となって活動の企画・運営が可能となる。活動内容については、PY同士が様々な事柄について自由に語り合える空間、自由な交流(クラブ活動やサークル活動等、各参加地域を超えた全PYが参加するイベント)等が含まれる。活動の企画・運営は、イベント委員会が主導した。

仮想空間は「oVice」を使用し、仮想の船内をイメージした本事業独自の空間を構築し、そこで自由な空間、交流の場を創造した。相手に近づくと声が聞こえる、会話ができる、まさにリアルと同じ感覚のコミュニケーションツールで、カメラをオンにすればビデオ通話も可能である。

【委員会からのコメント】

本年度の「世界青年の船」事業は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大を受けて、1か月間のオンライン交流と2週間の対面交流のハイブリッド方式で実施された。オンライン交流は、oViceとZoomという2つのプラットフォームで行われた。oViceでは、PYがいつでもアクセスでき、交流や企画、自発的な活動を行うことができ、今回の事業では叶わなかった船上での活動を疑似的に体験することができた。

オンライン交流

開講式及びCDはZoomで行われた。時差を考慮し、オンライン交流は2つのグループに分かれ、グループ1にはバーレーン、日本、オマーン、ポーランド、南アフリカ、スウェーデンが、グループ2にはオーストラリア、ブラジル、カナダ、日本、メキシコ、ペルーのPYが参加した。両グループとも、同じ内容の体験や交流をすることができた。各グループ3日間のオンライン交流は、PY、NL、ファシリテーター、事務局が1つのZoomに集まるという方法で行われ、全体会が終わると、PYはそれぞれのCDに分かれた。

開講式は、小倉将信内閣府特命担当大臣の感動的なスピーチで幕を開けた。続いて、各コースのファシリテーターと事務局員が簡単な自己紹介を行った後に、参加国のNLによる自己紹介の機会も設けられた。NLからは、これから始まる体験に向けて、PYに様々な温かいアドバイスが贈られた。また、開講式では、注意事項、委員会の構成、事業中に考慮すべき健康・安全対策について詳しく説明された。

オンライン交流の2日目は、NLが様々なアイスブレイクを行い、PYが互いに理解を深められるよう工夫され

た。セッションでは、Human Bingo(共通点を探すゲーム)、Cultural Map(文化の違いを可視化するワーク)、Bring Me(借り物ゲーム)などが行われ、各国の文化を共有することができた。これらのアクティビティは素晴らしいアイスブレイクとなり、PY全員が、より強い絆で結ばれた。

オンライン交流の最終日は、5分間のプレゼンテーションを通して、参加国の素晴らしい文化を紹介するという、締めくくりに対応しい構成であった。各国はそれぞれの方法で自国の文化を紹介した。この交流を通じて、PYのプログラムへの期待はより高まり、そして、各国の文化に対する理解を深めることができた。

仮想空間における交流

11月から始まった仮想空間における交流のために、イベント委員会のoViceチームの7名が、仮想空間であるoVice上の交流の準備を行った。「oViceを通して対面で会いたい人が1名でもできる」ことを目的として、毎週最低2つのイベントを実施し、オープニング・イベントなど合計9つのイベントを主催した。特にoVice上で行われたオープニング・イベントには2日間で60名以上が集まり大盛況であった。

oViceには他のツールと比べてユニークな点が2点ある。1つ目は、常にオープンな場所であること。誰でも24時間アクセスするだけで、入ることができ、偶発的な出会いが生まれるように設計されていた。2つ目はグラフィックのキュートさ。SWYハイブリッド専用のoVice空間は私たちが恋焦がれた客船をモチーフにデザインされ、まさに船に乗っているような感覚を味わうことができた。これらのユニークさを活かし、イベント時以外にも、一人で食事をする時にoViceをのぞいてみたり、寝る前に少し雑談したりと、「会いたい!」を作るきっかけが散りばめられた空間で存分に楽しむことができた。

- ・ オープニング・イベント
 - (1) ウェルカム動画
 - (2) ガイドラインの説明
 - (3) 各国NL・YLによる挨拶動画
 - (4) oViceへのログインの仕方とCDなどの基本情報
 - (5) 委員会等からのアナウンス
 - (6) ゲーム(①全体4択クイズ、②自己紹介タイム、③ものしりとり)
- ・ 第一週:【共通点探しゲーム】
- ・ 第二週:【はあって言うゲーム】【NASAゲーム(ワードウルフ)】
- ・ 第三週:【今何を描いているのかゲーム】【トークイベント「あなたの国でバズっていること」】
- ・ 第四週:【SWYerと話そう】

4 ピア・ラーニング・セミナー (PLセミナー)

ピア・ラーニング・セミナー (PLセミナー) は、PYが主催するセミナーで、1つのPLセミナーは75分 (全4コマ) である。

全PYは、PLセミナーの各コマにおいて、主催者あるいは参加者となる。主催者以外のPYは、当日参加したいPLセミナーに自由に参加することができる。PLセミナーの運営は、セミナー委員会が主導した。

PLセミナーは、主催者がこれまで勉強してきたこと又は経験してきたこと等についてPYと共有し議論する活動として、次のことを目的として実施する。

【主催者】

- ・ 自らの考えや経験等を伝えることによりプレゼンテーション能力を高めること
- ・ PLセミナーの企画・立案から実施、参加者からのフィードバックまでの一連のプロセスを経験することによりプロジェクトの遂行能力を高めること

【参加者】

- ・ 主催者の考えや経験等が共有され、お互いのバックグラウンドをより深く知ることができること
- ・ 主催者の運営方法からワークショップやディスカッション

ションの効果的な実施方法を学ぶこと

【委員会からのコメント】

PLセミナーは、セミナー委員会の運営サポートを受けてPYが主催する活動で、PYの関心のあるトピックを取り上げた。セミナー委員会は、必要物品の準備を含め、セミナーを開催する上での運営サポートをし、セミナーの主催者と参加者の両者がこの経験から最大限に学ぶことができるような包括的なガイダンスを提供した。PLセミナーは、文化 (伝統芸術、ファッション、ゲーム、等)、政治・社会課題 (移民、ジェンダー、若者のエンパワーメント、等)、自己開発 (コミュニケーション、リーダーシップ、等)、等の幅広いトピックを取り扱った。

合計27のPLセミナーが開催された。PLセミナーは少人数のグループで行われ、学びを促進し、人と人との繋がりや異文化理解を深めるトピックや活動に参加者が向き合うことを可能にした。PLセミナーのテーマの広がりには、PYの多様な関心とスキルを反映し、より広いグループの間で豊かな議論、そしてスキルの共有と育成を可能にした。

【PLセミナー一覧】

| 主催者 | PLセミナー名 | 内容 |
|--|-----------------|--|
| (日本) | 書道 | 書道を紹介し、参加者の名前やその他の言葉を書く練習を行った。 |
| (日本) | 宝塚歌劇への航海 | 宝塚歌劇の背景を共有し、その精神を捉える活動を参加者と共に行った。 |
| (日本) | 無意識の偏見を理解する | 無意識の偏見と、社会的環境で対処し克服するためのスキルとツールについて議論した。 |
| (日本) | 地球規模の課題について議論する | 地球規模の課題に関する視点、及び地球規模の課題に対処するための様々なアプローチについて共有した。 |
| (日本) | 日本語教室 | 参加者に日本語で基本的な単語やフレーズを教え、日本の文字を紹介した。 |
| (カナダ) | 暗黒物質の探索 | 物理学の研究と暗黒物質の探索を探求した。 |
| (日本) (ブラジル) (ペルー) (南アフリカ) (スウェーデン) | 移民問題 | 共通の課題と解決策を含む、避難民、移民、難民の様々な状況を分析した。 |
| (ブラジル) | ブラジルにおける人種差別 | ブラジルの人種差別について議論し、政治、文化、言語、人種の交差性を考察した。 |

| 主催者 | PL セミナー名 | 内容 |
|--|---|---|
| (オーストラリア) | 人生の木 ～第2のストーリー | アイデンティティ、ストーリー、文化的背景を考慮し、より多くの人生の目的と意味のために生きることについて考えた。 |
| (スウェーデン) | 経済と持続可能性のギャップを埋める | 持続可能性に焦点を当てた経済学への現代的なアプローチについて議論した。 |
| (ペルー) | オリジナルのチチャ・ポスターを作ろう | ペルーの芸術形式であるチチャ・アートを共有し、参加者が自身のチチャ・アートを作成した。 |
| (メキシコ) | 手段がなければ世界に対抗できない (No Means No Worldwide) | 性的及びジェンダーに基づく暴力について話し合い、暴力を伴う状況に対処するためのスキルを参加者が身に付けることを目標とした。 |
| (ポーランド) | ヘンナ・アートとポーランド・デザイン | ヘンナ・アートを伝え、ポーランドのデザイン技術とスタイルを紹介した。 |
| (ブラジル) | 建築における日常的な利便性の実践：民主的な空間の体験 | アクセシビリティと公平なアクセスに関連する建築とデザインの原理を参加者に紹介した。 |
| (ペルー) | 気候変動が与える影響 | 各国の気候変動や、各団体が行っている行動について話し合った。 |
| (メキシコ) | メキシコでのプログラミングとテクノロジーの紹介 | プログラミングと、現代のメキシコでテクノロジーがどのように活用されているかを紹介した。 |
| (日本) | 日本の伝統的な遊び | 様々な伝統的な日本のゲームを参加者に紹介した。 |
| (日本) (オーストラリア) (ブラジル) (メキシコ) (オマーン) (ポーランド) (スウェーデン) | 世界の怖い話 | ホラーや怖い話を共有し、文化の交差性について議論した。 |
| (メキシコ) | 歴史の再教育： 国境のない女性たち | 歴史における女性の役割と、女性が行った仕事を促進する方法について議論した。 |
| (南アフリカ) | 倫理的な問題に立ち向かう | 倫理的及び道徳的な問題について話し合い、それらを現在の意思決定に関連付けた。 |
| (バーレーン) (オマーン) | アラビア語教室 | アラビア語のアルファベットと便利なフレーズを習った。 |
| (ペルー) | ストリートアートで街を変えよう | ストリートアートを紹介し、世界中の都市のアプローチを比較した。 |
| (日本) | ファッションについて考えよう | ファッション業界と、それが市民と消費者として私たちをどのように結びつけるかについて話し合った。 |
| (バーレーン) | 青年とリーダーシップのエンパワーメント：SWY 参加者のリーダーシップ・モデルを構築しよう | バーレーンでの若者のエンパワーメントの実践を調査し、グローバルなアプローチについて議論した。 |

| 主催者 | PL セミナー名 | 内容 |
|-----------------|--------------------------|---|
| (カナダ) (日本) | 食育：食を通じた教育と コミュニティの構築 | カナダ及び世界の食品、政治、食育プログラムについて話し合った。 |
| (ブラジル) | 視点を描き直す：21 世紀の 強制避難民 | 難民や強制移住にまつわるテーマや、移住に まつわる政治・社会問題を探求した。 |
| (日本) (南アフリカ) | ジェンダーのレンズを通して 世界を見る | ジェンダーについて、またジェンダーのレンズ によりアイデアや視点にさらなるニュアンスを もたせる方法について議論する。 |

5 ナショナル・プレゼンテーション(NP)

ナショナル・プレゼンテーション(NP)は、PYがデリゲーションごとに、自国の歴史、文化、伝統芸能そして政治や経済等の社会一般について紹介することで、参加各国に対する理解を深めるとともに、自らの国の事柄について再認識することを目的として実施する。各国の持ち時間は30分である。NPの運営は、プレゼンテーション委員会が主導した。

【委員会からのコメント】

参加者が参加各国についてより深く理解するために、各デリゲーションによるNPが行われた。NPでは、各国の歴史、文化、芸術、伝統、政治、経済、社会課題などの観点からそれぞれのデリゲーションが紹介した。

NPの最初を飾ったのは、この事業の主催国である日本である。日本は、伝統的な踊りや太鼓などの楽器、空手のデモンストレーションを披露し、同時に、ポップカルチャーを取り入れた紹介を行った。次のオーストラリアは、自国の人口の成り立ちや移民の話などを情感豊かに表現した。また、オーストラリアのスラングを紹介し、最後にピアノを囲みながら「I am Australian」を合唱し、PY全員が一体となってNPを終えた。初日の最後、バーレーンのNPは、まるでタイムトラベルしたかのように、様々な時代におけるバーレーンの多様性と文化の豊かさを私たちにを見せてくれ、最後は感動のフィナーレで幕を閉じた。

翌日は、ブラジルで始まり、広大な国土における政治、

文化、生物多様性の課題について、授業形式で紹介してくれた。次のカナダは、トークショー形式のNPで、様々な質問を通して、カナダ文化に対する固定観念を打ち破ってくれた。2日目最後のメキシコは、スペインの植民地となる以前の時代から始まり、伝統的なものから現代的なものまで、さらに様々な踊りに至るまで、様々な時代を旅する明るいNPで幕を閉じた。

3日目のNPには、最初にオマーンが登場し、伝統的な衣装に身を包み、様々なダンスを披露してくれた。さらに、2023年11月にオマーンでの開催が予定されているSWYAAグローバル・アセンブリーの紹介もしてくれた。次のペルーは、色とりどりの民族衣装と様々なダンスで各地を旅するような演出をしてくれた。3日目の最後には、ポーランドが、この国が持つ広大な文化芸術や、さまざまな風景、重要な人物を紹介してくれた。

最終日のNPは、南アフリカの文化や言語の多様性に関する力強いスピーチで幕を開け、ダンスが会場の雰囲気盛り上げた。最後のNPは、スウェーデンがコンテスト形式で、伝統や言語、伝統的な祭りや歌などについて語り、幕を閉じた。

NPは、各デリゲーションのPYが自国の文化についてより深く知ることができるだけでなく、PY全員が本事業の多様性と多文化について学ぶことができる絶好の機会となった。

6 自主活動 (VA)

自主活動 (VA) は、PYの自発的なアイデアにより、自由に企画し実践する活動である。共通の興味や関心を持つPYと一緒に企画・運営することもできる。企画・運営の全てがPYによって行われ、それらの活動を通してPY相互の理解と親交を深める。VAの管理は、イベント委員会が行った。

【委員会からのコメント】

VAは、PYが互いの知識と経験から学び合うことを目的として実施された。活動の主催者は、様々なトピックについて有益な活動を企画し、それについて話し合う場を作り出した。他にも、ヘンナ・タトゥー、書道、太鼓、ヒップホップダンスなど、ユニークな才能を披露する主催者もいた。全体として、VAは大成功であった。これは、様々なデリゲーションのPYが協力し合い、教育的で人を惹きつける見事な一連のVAを作り上げたからである。この活動は主催者にとっては、リーダーシップとマネジメントを実践的に高めることができる機会であり、参加者にとっては、PY同士から学び視野を広げる機会となった。

最も記憶に残るVAの一つは、対面交流の最初の夜に実施されたアラビアン・ナイトである。オリエンテーションや自己紹介、新しい出会いがあった長い1日の後、PYはまるで魔法がかかったかの様な素敵なVAに招かれた。このVAは、オマーンとバーレーンのデリゲーションによって主催された。彼らは、何か月もの準備期間を経て、他のPYが心から体験できるための用意ができていた。会場に足を踏み入れると、ほの暗い照明に照らされ、バックグラウンドにアラビア音楽が鳴り響き、熱心にアラビア文化を紹介したいと望むたくさんのPYに迎えられた。たくさんのダンスや、参加者が伝統的なアラビア服を試着できるフォトブースなども用意されていた。

数日後、全てのPYは、壮大なラテン・ナイトに招かれた。これは、ブラジル、メキシコ、ペルーのデリゲーションにより主催された、素晴らしいVAだった。参加者は、願い事をしたり、ピニャータを叩いたり、伝統的なラテンの服で着飾ったり、ダンスを習ったりすることができた。世界中から集まった人々が様々なダンスの動きを真似ようとして波のように動くのを見るのは本当に素晴らしい経験であった。主催者を中心にPYが円になって踊り、ナイトは盛況のうちに終了した。

他にも数え切れないほどのVAが企画された。残念ながら、ここで全てに言及することはできないが、他の興味深い活動には、ボードゲーム・ナイト、宝塚歌劇鑑賞、テキーラ紹介、ピンゴ大会、等がある。最後の夜に、ポーランドの歴史を知るVAの中でトルコ・シリア大地震を支援するチャリティー・オークションが開催された。PYが不要なものを寄付し、バッジ、衣類、キャンディー、その他の様々なものが集まった。ここでは、10万円以上の募金が集まった。このようなイベントは、様々な国が団結し共に社会に貢献できるSWYの真の力を示している。

最後に特筆すべきVAは、ジャパン・ナイトである。CDごとに分かれて活動した地方プログラムの後、全ての参加者が再び集まり、それぞれの県市での素晴らしい経験を共有する機会となった。参加者は、空手を学び、着物を着て、カラオケを歌い、日本文化を心から味わうことができた。主催者のJPYは、日本全国から集められた和菓子を紹介してくれた。このVAは本当に思い出に残る夜となった。

これらのVAを通じて、PYは世界の多様性について学び、友情と協同の関係を築き、地球規模の問題に対する理解を深めることができた。活動は楽しいだけでなく、若いリーダーの育成にも役立った。全体として、VAは、いつまでも記憶に残る「SWYハイブリッド」を創り出した。

【VA一覧】

| 主催者代表者 | VA名 | 内容 |
|--------|---------------------|---|
| (オマーン) | カーボンフットプリントを減らすには | カーボンフットプリントについて説明し、参加者のカーボンフットプリントを計算し、どのようにしたら減らすのかを考えた。 |
| (メキシコ) | 死者の日「伝統と装飾」 | メキシコの伝統行事である「死者の日」について説明し、飾り付けをした。 |
| (メキシコ) | メキシコのストリートアート・レタリング | メキシコのストリートアートについて説明し、そのレタリングを用いて実際にロゴを作った。 |
| (日本) | 宝塚歌劇鑑賞 | 実際に宝塚歌劇の舞台を見た後、その感想などについてディスカッションをした。 |

| 主催者代表者 | VA名 | 内容 |
|----------|-------------------------------|--|
| (ブラジル) | 人類による建築物 | ブラジル、ペルー、オマーン、日本の4名のPYによるプレゼンテーションを行った。 |
| (オマーン) | アラビアン・ナイト | バーレーン・オマーンが主催し、アラビア伝統のお菓子の試食コーナーやライブ音楽、フォトブースなど、それぞれの国の文化を楽しみながら学んだ。 |
| (メキシコ) | テキーラ紹介 | テキーラについて、その歴史・文化・背景など、アクティビティを通して楽しく学んだ。 |
| (メキシコ) | カラオケナイト | 各国の代表的な曲や有名な曲を皆で歌った。 |
| (メキシコ) | ラテン・ナイト | ペルー、ブラジル、メキシコが主催し、それぞれの国の音楽、伝統的な服装での写真撮影、ゲームなどを行った。 |
| (ブラジル) | 水彩画 | 水彩画の基本的な考え方について、いつでも簡単に描くことができることを伝え、最後には水彩画をプレゼントした。 |
| (メキシコ) | ボードゲーム・ナイト | 様々なボードゲームを体験した。 |
| (日本) | ジャパン・ナイト | 日本が主催し、日本の様々な伝統文化を紹介した。 |
| (カナダ) | 英会話・日本語会話練習 | 日本語の知識や経験があるOPYとJPYがペアになり、会話練習をすることで、会話力向上を目指した。 |
| (ブラジル) | ヒップホップダンス | 曲に合わせて、ウォームアップ、筋力トレーニング、テクニック、ストレッチ、振り付けを行った。 |
| (スウェーデン) | 鳥とミツバチ：人間関係と性の健康についてのワークショップ | (1) 関係を始めること、(2) 関係を持つこと、(3) 関係を終わらせること、の3つについてディスカッションをした。 |
| (ブラジル) | 初心者のための和太鼓ワークショップ | 日本の太鼓の技術を学んだ。 |
| (日本) | SWY 運動会 | 日本の運動会の種目を通して、参加者同士の団結を高めた。 |
| (日本) | 関西弁を学ぶ | 日本語の中でも関西方言に着目し、学んだ。 |
| (日本) | 折り紙教室 | 日本の伝統文化の一つである折り紙を皆で折り、体験した。 |
| (日本) | ビンゴ大会 | ビンゴを通して多くの人と交流した。 |
| (ポーランド) | ヘナ・タトゥー | ヘナ・タトゥーを皆でデザインし、実際に体験した。 |
| (ポーランド) | ポーランドの歴史、ポーランドを無料で学ぶ、ポーランドの風景 | ポーランドの歴史についてポーランドの青年から学んだ。ポーランドの美しい景色を写真とともに学んだ。 |
| (オマーン) | SWY22 (第22回「世界青年の船」事業) 体験談 | 主催者が参加したSWY22がどのようなものだったかを学び、SWYハイブリッドに生かした。 |

7 サマリー・フォーラム

令和5年2月20日に開催されたサマリー・フォーラムの運営は、プレゼンテーション委員会がGLと共同で主導した。

【委員会からのコメント】

「SWYハイブリッド」の締めくくりとして、サマリー・フォーラムが開催された。その中心は、「2030アジェンダ」のSDGsに焦点を当てた各CDの学びとコミットメントを、各CD15分で報告することである。

まず、CD-1「あらゆる人々の活躍の推進」は、PY全員が、オンライン交流与対面交流で学んだことを話し、自身の国で活躍できる行動や役割について発表した。

CD-2「ジェンダー平等、女性活躍の推進」は、ジェンダー平等を達成するためのチームのアクションプランと、地方プログラム高知県での活動について報告した動画を紹介した。

CD-3「健康・長寿の達成」は、それぞれの個人のウェルビーイングに貢献する活動について報告し、身体を動かすための「ラジオ体操」を紹介した。

CD-4「成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション」は、SDGs 8と9について、また、地方プログラムでの鳥取県産業技術センターへの訪問などについて報告し、最後に、学んだスキルをそれぞれのコミュニティでどのように生かしていくのかを述べた。

CD-5「持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備」は、SDGs 6と11について、また、課題別視察②でのNPOみらいの森への訪問と、地方プログラム神奈川県での活動について報告した。

CD-6「省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会」は、オンライン交流での学びと、課題別視察②で訪問したスマートシティの事例からの学びについて報告した。

CD-7「生物多様性、森林、海洋等の環境の保全」は、地方プログラム宮城県で訪問した震災遺構の学校、また震災からの復興について報告した。

CD-8「平和と安全・安心社会の実現」は、変革の担い手であり平和の構築者としての青年について考えるきっかけとなった活動として、課題別視察②で訪問したピープルポート株式会社Zero PCや、地方プログラム岡山県での活動を報告した。

サマリー・フォーラムの締めくくりは、11か国の国名及び各PYの署名による書道のデモンストレーションで始まり、続けて司会から、YL、NL、ファシリテーター、事務局スタッフへの感謝の気持ちを表した。その後、SWYハイブリッドの、オンライン交流と対面交流を振り返る動画で締めくくられた。

プレゼンテーション委員会による最終プレゼンテーションの準備は、対面交流開始時から始まり、どのようなイベントを企画したいか、誰が担当するか、観客に何を感じてほしいかを考え、企画した。何を企画したとしても、SWYや仲間と別れを告げることは悲しい雰囲気になることが予想されたので、憂鬱な雰囲気を避けることが大きな課題であった。サマリー・フォーラムの運営をすることで私たちが身につけた最大のスキルは、一緒に過ごした過去を振り返って懐かしむことよりも、未来に向かってPYが協働できる分野に焦点を当てた内容の企画を練る、という能力であると思う。世界中から集まったリーダーたちと協力し合って、私たち全員の思い出となるサマリー・フォーラムを開催できたことは素晴らしい経験であった。運営側として関わったことで、プレゼンテーションの内容については、事前にある程度把握していたが、それでも、自身が参加したCDのプレゼンテーションの内容には大きな感動があり、再び涙を誘うこととなった。